



# カジノを含む統合型リゾート（IR）の導入について

---

平成28年10月



長崎県



佐世保市

## 要望事項

本県のみならず、九州全体、ひいては我が国全体の観光振興、地域振興の大きな起爆剤となるIR導入について、以下の4点を強く要望いたします。

- 1 特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法制度の早期整備を図ること
- 2 法制度の整備にあたっては、地方への導入など地方創生の実現に貢献する内容を盛り込むこと
- 3 治安の悪化、青少年への悪影響、ギャンブル依存症の増加などの懸念される事項に対し、地方公共団体とも連携した対策を講じること
- 4 長崎地域を特定複合観光施設区域として選定すること

# 地方へのIR導入による地方創生

## まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標

① 地方における安定した雇用を創出する

③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

② 地方への新しいひとの流れをつくる

④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

## IRが地方にもたらす効果

### ① 「しごと」と「ひと」の好循環の創出

- ・ 東京周辺やゴールデンルートから地方への新たな人の流れを創出
- ・ 新しい「しごと」を生み出し、雇用を通じた定住人口の増加という「ひと」の流れを創出
- ・ 地元大学による地域の需要に沿った人材の育成

### ② 地方経済への強いインパクト

- ・ 開発に伴う投資など高い経済効果による地方経済への貢献
- ※試算結果
  - 経済波及効果 約2,544億円
  - 雇用誘発効果 11,062人
- ※民間団体の最小限の開発を想定した試算であり、さらなる効果が期待される。
- ・ 納付金等による地域振興への貢献

### ③ 広域観光周遊を促進し、地方の魅力を強力に発信

- ・ 地域連携により、自然、歴史文化など多様な観光資源を最大限に活用した観光エリアを形成
- ・ 自然・歴史・世界遺産などストーリー性のある広域周遊テーマの形成など情報発信力を強化

# 海外事業者との関係構築

- 世界最大のカジノ関係国際見本市「Global Gaming Expo（ラスベガス開催）」およびそのアジア版「Global Gaming Expo Asia（マカオ開催）」に、日本の自治体として唯一出展。
- 計47社の事業者等と面談し、IR候補地としての本県のPRと事業者との関係構築を行った。

## G2E（Global Gaming Expo）2015

- ・毎年9月にラスベガスで行われる世界最大のカジノ関連見本市。関係セミナー等も開催。
- ・全米の関係事業者による団体の主催で、多くの関係事業者（主にアメリカ等）が集まる。
- ・ラスベガスに本拠地を持つ事業者の役員クラスや事業導入等に関わってきたコンサルタント等も参加。

## G2E Asia 2016

- ・G2Eのアジア版として毎年5月にマカオで開催。
- ・ラスベガスのG2Eには参加しないアジア・オセアニアの事業者、アジア開発担当が多く集まる。

## G2E参加の成果

- ラスベガスにおいては30社、マカオにおいては17社と面談し、IR導入において考慮すべき具体的な内容（法規制や所要面積、IRの運営形態等）についての情報を入手。
- このエキスポに参加した日本の自治体は本県が唯一であったことから、現地及び日本のメディアに掲載され、IR候補地としての長崎県・佐世保市の優位性を広くアピールできた。

# I R誘致にかかる本県経済界の直近の動き

- 平成28年9月23日に「西九州統合型リゾート研究会 第10回定期総会」が開催され、「引き続き、官民一体となって日本最初の地方創生型I Rの実現をめざす」ことが決議された。
- また、研究会顧問のハウステンボス代表取締役社長澤田秀雄氏が、「ハウステンボスはカジノにぴったりの場所。全力を挙げて協力していきたい。」と発言するなど、本県はI R誘致の環境が全国に先駆けて整いつつある。

## カジノリゾートに「立候補」

ハウステンボス 地元経済界宣言

平成28年9月24日  
日本経済新聞

西九州統合型リゾートは23日、ハウステンボス 開き、「地方創生型I R研究会(会長・前田一彦 (HTB、長崎県佐世保市)で第10回定期総会を」カジノを含む統合型リゾートを挙げて協力していき

「(通称I R)について、「すでに高い集客力を有するハウステンボスエリアをI Rとして再開発することで、短期間・低リスクで国際競争力の高いI Rの開発が可能である」として、ゼロから設置することに比べた優位性を強調した。

研究会の顧問を務める澤田秀雄HTB社長は「ハウステンボスはカジノにぴったりの場所。全力を挙げて協力していきたい」とあいさつした。宣言はHTBを想定した西九州地域へのI R誘致は「県や市、各議会、経済団体が準備を進めている、全国でも稀有な地域」と指摘、「日本で最初の地方創生型I Rの実現を目指す」として

### I R立候補宣言 研究会が承認

HTB誘致目指す 佐世保市のハウステンボス(HTB)にカジノなどを備えた統合型リゾート(I R)の誘致を目指す「西九州統合型リゾート研究会」の定期総会が23日、HTB内のホテルで開かれ、「地方創生型I R立候補宣言」を承認した。

宣言では、東京一極集中を是正する観点から、I Rは大都市より地方に優先的に設置することが望ましいと指摘。県、市、経済団体などが一体となって設置準備を進めている全国でも珍しい地域であることや、集客力のあるHTBに設置することで短期間、低リスクで国際競争力の高い施設開発が可能なことなどを挙げ、実現を目指すとした。

超党派の「国際観光産業振興議員連盟」副幹事長の遠山清彦衆院議員(比例九州)が講演、「『カジノは

### 「地方活性化の手段」

I R研究会 カジノ誘致を目指す 佐世保

佐世保市のハウステンボス(HTB)にカジノ誘致を目指す「西九州統合型リゾート(I R)研究会(会長・前田一彦・佐世保商工会議所会頭)は23日、HTB内のホテルで定期総会を開いた。県内外の経済人ら約100人が出席し、「日本で最初の地方創生型I Rの実現を目指す」との宣言を採択した。カジノを合法化する

I R整備に関する法案は、国会で継続審議となっている。総会では、I R議員連盟副幹事長を務める公明党の遠山清彦衆院議員が講演し、「I Rは地方活性化の手段」と強調。「カジノと温泉や商業施設などを組み合わせることなどで海外から地方創生を呼び込める。地方創生の観点からも地方が積極的にI Rを誘致するべきだ」とした。

平成28年9月24日  
毎日新聞

平成28年9月24日  
読売新聞

すでに各国にあって飽和状態ではないか」という指摘があるがそれは思わない。佐世保でカジノ、佐賀で温泉、福岡で買い物というふうに、3県の魅力を連動させることで、客が呼べるのではないかと語った。

